



家族がそばにいてだけで、 生きるチカラをもらっている。

今の仕事が好きだから、出産しても働きたいんです。

長男のおヨメさんからもそう言われ、話し合っ、二世帯ぐらしを決めたのは30年前だ。

わたしの頃はそれが難しかったから、彼女のガンバリを応援したかった。

干渉しない。期待しない。いいとこだけを見てあげる。

こっそり決めた、息子夫婦への接し方のルールだ。

一度、大きな病気をわずらった。おヨメさんが本当によくしてくれた。

そこまでなくていいんですよ、と言ったら、いつも助けてもらってましたから、と笑った。

おかげで今は、シャキッと生きている。

訪問介護のヘルパーさん、そして何より家族が見守ってくれている。

おばあちゃん、もう先は長くないよ。

毎日部屋に来てくれる孫におどけたら、

それ五年前も言ってたよ、と笑われた。

今までありがとう。おヨメさんに感謝した。

こちらこそ、とポロポロ泣かれた。

二世帯ぐらし30年、今、笑っている。

考えよう。答はある。

ヘーベルハウス

事実。介護を経験した「子世帯の98%」が「二世帯ぐらしでよかった」と答えています。

(「居住系ホームズ」30年暮らした家族による二世帯住宅の評価と住まい継承の実態」調査より)